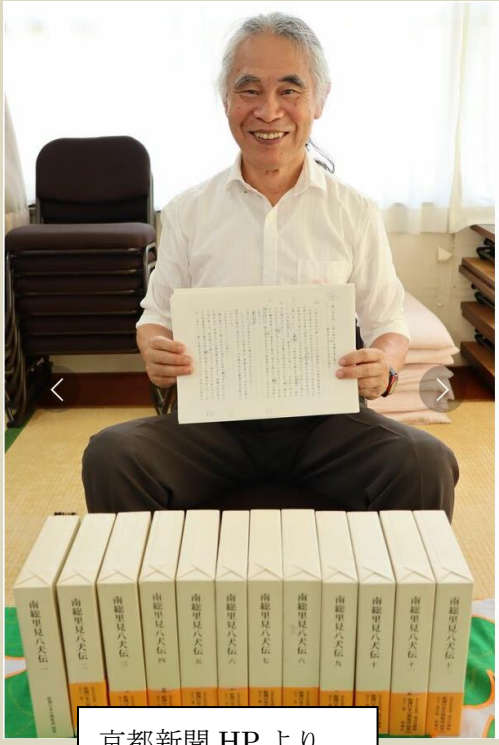
「南総里見八犬伝本邦初完訳全十二巻」発刊によせて

小野英明（31 期　スポレク　皇子山）

文芸を生活の中心軸に据えて生きている私にとって、令和五年春は特筆すべき季でありました。曲亭馬琴著の「南総里見八犬伝」という、我が国古典最長編の現代語訳全十二巻を、電子書籍で発刊したからです。7500 枚に及ぶこの作品は、演劇、漫画、アニメ、映画等に発表され続けており、今年の国立劇場の新春歌舞伎の出し物も八犬伝でありました。朝の連続ドラマ「らんまん」の主人公、槙野萬太郎の奥様の寿恵子様が、熱烈な八犬伝愛読者であり、これを機に更に全国に知れ渡ることになりました。



京都新聞 HP より

「かけはし」には、発刊後の後日談を書きたいと思います。内面的変化ですが、前人未踏の大仕事を竟に成し遂げたという、個人的自負心の効果は覿面で、生き方に絶対的軸のような自信がつきました。「大道悠々小径によらず」、何物をも怖いものが一切なくなり、従って腹も立たず臆することもなく、心身共に日々快調そのものです。外面的変化では、観る風景が一段階上がったような気がします。日本文学を扱っている全国の大学の著名な教授博士から手紙が届くようになりました。また全国の文学館長、特に館山博物館長と倉吉博物館長から丁寧な手紙を頂きました。館山市と鳥取県倉吉市は共同で NHK に対し、大河ドラマに里見氏を取り上げて下さるよう、粘り強く陳情を続けているとのことでした。特に倉吉博物館長は、倉吉市長の特命を受けたそうで、熱意のある手紙を頂きました。更に NHK 朝の連続ドラマ「らんまん」の製作チーフディレクターから、「スタッフ一同今回の発刊は大変に励みになっております」という、嬉しい手紙を頂きました。沢山の手紙を読むと、如何に八犬伝の完訳本が待たれていたかが分かりました。苦労したけれども頑張ってよかったなあと、しみじみと実感している次第です。

七月に突如京都新聞から取材申し込みがあり、八犬伝を完訳された功績を是非広く紹介したいというのです。取材は三時間に及びました。私も全体像を如何に説明するか苦心し、記者の方も限られた字数でどう表現するか苦闘していて、お互いに真剣勝負のひと時でしたが、発表された記事を読むと良くまとめられていて感心しました。

発刊以来売れ行きは絶好調で、連日多くの読者がいて、八犬伝の人気の根強さを改めて知りました。パソコンに売れた冊数、読まれた頁数が、株式相場のように刻々と表示されるのです。毎日の最大の楽しみであり励みになっております。

「アマゾン小野英明」で検索して下されば、詳細が分かります。八犬伝は「日本の宝」です。向上心があると自負している方は、是非頁を開いてください。新しい人生が開けます。